

社会福祉法人創思苑
2022年度 事業報告

2022年度

社会福祉法人創思苑 事業報告 目次

目次

| | | |
|---|----------------|----|
| 1 | はじめに | 2 |
| 2 | 創思苑概要..... | 4 |
| 3 | けんりようご委員会..... | 7 |
| 4 | 情報発信..... | 8 |
| 5 | 当事者活動支援..... | 10 |
| 6 | 部門別報告..... | 14 |

1 はじめに

「伝えたい、私たちの思い」

2016年、津久井やまゆり園で19人の知的障害者が命を奪われました。それから6年がたちました。悲しい事件のあった同じ年に、「知的障害のある人のことをもっと知ってほしい。そのために映像で発信したい」の思いを込めて、パンジーメディアは生まれました。この6年間に、私たちは知的障害のある人にとって、そして誰にとっても生きやすい社会を創ることができたでしょうか？ 残念ですが、答えは「NO!」です。コロナの感染拡大もあり、ますます生きにくい社会になっているように感じます。

そのような状況の中でも、当事者と一緒に可能な限り社会とつながる活動を続けてきました。

10月には、北海道で開催されたピープルファースト大会にほぼ全員で参加しました。みんなのうれしそうな顔やはしゃぐ姿をたくさん見ることができました。参加をする決断をするまでは心配は山ほどありましたが、思い切って決断をして本当に良かったと思いました。

パンジーメディアは、番組の制作やDVDの販売などパンジーからの発信だけでなく、NHKの番組への当事者の出演やマスコミの取材、そして研究機関などから、当事者が意見を求められることが多くなりました。

3月には「意思決定支援」について40人の当事者がインタビューを受けました。1人あたり1時間でスケジュールを組みました。1時間もインタビューに答えられるのか心配しましたが、ほとんどの人がもっと話したそうでした。求められることが多くなるにつれ、当事者の人たちはたくましくなっています。

「私たちのことを私たちぬきで決めないで」

パンジーメディアで放送した「大空へはばたこう～自立への挑戦～」の取材で、「津久井やまゆり園」を出て地域で暮らし始めた人、4人に会ってきました。重度訪問介護の制度を利用しながら一人暮らしをしている人、グループホームで暮らしている人、暮らし方はさまざまです。

ところが、全員に共通していることがありました。笑顔や言葉が増え、積極的になったことです。何を食べる、どこに行くかなどを自分から意思表示するようになった人もいます。津久井やまゆり園では車いすにしばりつけられたり、鍵のかかる部屋に閉じ込められていた人が、仲間と一緒に作業をしていました。

たとえどんなに行動障害があっても、安心できる環境で仲間や信頼できる人がいれば、人はいつでも変わることができる。そんな大切なことを、4人が教えてくれました。

「どんなに障害が重くても地域で普通に暮らしたい」は、すべての知的障害がある人たちの願いであり、人として当然の権利です。

しかし、日本では、入所施設からの地域移行は遅々として進んでいません。多くの知的障害者のくらしの場であるグループホームは大規模化し、虐待も増えています。重度訪問介護制度を利用した一人暮らしも、そんなに広がっていません。まだまだ知的障害者の地域でのくらしは選択肢が少ないのが現状です。

「わたしたちは、一人の人間として地域で自分らしく生きたい」

2023年、クリエイティブハウス「パンジー」はオープンして30周年を迎えます。またこの年は日本の知的障害者が初めてトロントで開催されたピープルファースト世界大会に初めて参加した年です。

世界では入所施設がなくなっている国もあるのに、日本では未だに13万人もの人たちが入所施設でくらしています。昨年8月には、国連の障害者権利委員会による初めての審査が行われました。障害者権利条約の第19条は「施設から地域に出て自立した生活を送る」ことを定めた条文です。権利委員会は、日本は、この第19条が保障されていないとし、「脱施設化」と地域でくらすための法整備や、予算配分の見直しを日本政府に求めました。どんなに障害が重い人も地域で自分らしくくらししてほしいと思っています。そのために「大空へはばたこう」の上映会とシンポジウムを全国で開催します。最初は小さな動きでもそれが大きくなるとなり、知的障害のあるだれもが地域で自分らしくくらす社会が実現することを願います。

当事者の思いが実現するように、多くの人たちと歩みたいと考えます。

(社会福祉法人創思苑 理事長 林 淑美)

2 創思苑 概要

1. 理事会・評議員会

○ 理事会を次の通り開催した。

| | |
|--------------|-------------|
| 2022年度第1回理事会 | 2022年 6月 3日 |
| 2022年度第2回理事会 | 2022年 7月19日 |
| 2022年度第3回理事会 | 2022年 8月19日 |
| 2022年度第4回理事会 | 2022年 8月29日 |
| 2022年度第5回理事会 | 2022年 9月22日 |
| 2022年度第6回理事会 | 2022年11月21日 |
| 2022年度第7回理事会 | 2023年 3月 3日 |
| 2022年度第8回理事会 | 2023年 3月17日 |

○ 評議員会を次の通り開催した。

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 2022年度第1回評議員会 | 2022年6月21日 |
| 2022年度第2回評議員会 | 2022年8月 3日（新型コロナウイルス感染予防の観点から書面決議） |
| 2022年度第3回評議員会 | 2023年3月 3日（新型コロナウイルス感染予防の観点から書面決議） |

2. 利用者の状況

①日中活動・・・2022年度の開所日は、年間259日だったが、コロナ感染症のため、各場1週間程度閉所した。

○クリエイティブハウス「パンジー」 生活介護 定員32名

月別平均利用数（人）

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 31.71 | 30.14 | 31.1 | 30.2 | 29.1 | 30.4 | 30.3 | 29.9 | 30.4 | 29.6 | 30.1 | 30.3 | 30.3 |

区分別利用者延人数

| 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 平均区分 | 平均利用者数 |
|-----|-----|-----|-------|-------|------|--------|
| 0 | 0 | 0 | 2.753 | 5.085 | 5.65 | 30.3 |

○クリエイティブハウス「パンジーⅡ」 生活介護 定員30名

月別平均利用数（人）

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|
| 34.57 | 33.48 | 35.27 | 33.27 | 31.09 | 32.59 | 31.41 | 32.1 | 32.59 | 32.24 | 32.25 | 32.59 | 32.8 |

区分別利用者延人数

| 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 平均区分 | 平均利用者数 |
|-----|-----|-------|-------|-------|------|--------|
| 0 | 0 | 1.117 | 2.378 | 4.997 | 5.35 | 32.8 |

○クリエイティブハウス「パンジーⅢ」 生活介護 定員30名

月別平均利用数 (人)

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-------|
| 30.29 | 29.9 | 31.36 | 29.91 | 29.05 | 30.14 | 30.4 | 28.59 | 27.3 | 27.81 | 29.1 | 29.59 | 29.46 |

区分別利用者延人数

| 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 平均区分 | 平均利用者数 |
|-----|-----|-------|-------|-------|------|--------|
| 0 | 372 | 2.630 | 3.007 | 1.620 | 4.66 | 29.5 |

○クリエイティブハウス「パンジーⅤ」生活介護 定員16名

月別平均利用数 (人)

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|-------|-------|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|
| 16.14 | 16.57 | 16.41 | 15 | 15 | 16 | 16 | 16 | 16 | 15 | 17 | 17 | 15.98 |

区分別利用者延人数/生活介護のみ (人)

| 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 平均区分 | 平均利用者数 |
|-----|-----|-----|-------|-----|------|--------|
| 0 | 207 | 682 | 2.694 | 556 | 4.87 | 16.0 |

○クリエイティブハウス「パンジーⅤ」就労継続支援B型 定員10名

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 4.38 | 4.62 | 4.64 | 4.45 | 4.45 | 4.27 | 3.91 | 4.59 | 4.82 | 5.71 | 5.95 | 5.86 | 4.795 |

②グループホーム (共同生活介護) 定員81名 24住居

○2022年度利用延べ人数

| 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 合計 | 平均区分 |
|-------|-------|-------|-------|--------|-------|------|
| 1.449 | 1.702 | 4.589 | 5.569 | 11.038 | 24.35 | 5.4 |

○年齢

| | ～29歳 | 30歳～ | 40歳～ | 50歳～ | 60歳～ | 70歳～ | 80歳～ | 平均年齢 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 人数 | 2 | 11 | 31 | 18 | 8 | 3 | 1 | 48.51 |

3. 職員関係

①職員の採用・退職状況 (3月末の数)

| | 職員数 | 育休・休職者 | 入職者 | 退職者(年間) |
|--------|-----|--------|------|---------|
| 2020年度 | 58 | 1 | 5(1) | 6 |

| | | | | |
|--------|----|---|-------|---|
| 2021年度 | 67 | 1 | 8(1) | 2 |
| 2022年度 | 72 | 0 | 14(4) | 7 |

※入職者のうち、() は、パンジーV。※嘱託職員含む

②研修について

1, 内部研修

- ・新人研修 障害者の人権について
- ・愛着障害について
- ・障害者虐待防止について
- ・障害のある方々の性とその対応について
- ・よりよいグループホーム生活を目指して
- ・対大阪府交渉勉強会
- ・創思苑事業計画・理念と運営方針について
- ・整理日職員研修 虐待防止、入所施設解体について

2, 外部研修

- ・サービス管理責任者更新研修
- ・強度行動障害研修基礎編・実践編

③外部会議への参加について

以下の会議に参加し、積極的に情報交換等を行い職員の意識の向上を図った。

- ・ピープルファースト大阪会議
- ・ピープルファーストジャパン会議
- ・東大阪市自立支援協議会
- ・相談支援連絡会
- ・障大連東ブロック会議
- ・東大阪市障害児・者施設連絡会
- ・東大阪市事業所連絡会（幹事会・グループホーム部会・短期入所部会）
- ・東大阪市共同受注会幹事会

4. 年間行事・運動等について

コロナ感染予防のため、パンジーまつりは中止した。

5月…保護者懇談会

6月…健康診断

7月…対府交渉・デモ行進

10月…パンジー旅行（北海道）・ピープルファースト大会

11月…保護者懇談会インフルエンザ予防接種

12月…クリスマス会／健康診断

3 けんりようご委員会報告

1, 委員会の開催

理事長・チーフ・リーダー、当事者代表（生田進さん、梅原義教さん、山田浩さん）が参加した。4月、6月、8月、11月、12月、2月に開催し、話し合った主なトピックは以下の通り。

- ・身体拘束等適正化について
- ・障害者虐待防止について
- ・自傷行為のある方への関わりについて
- ・誤薬をなくすための取組について
- ・誤嚥しやすい方への支援について
- ・車への乗降時の支援について
- ・運転時のマナーについて
- ・身体介護の介護技術について
- ・怪我を予防するための取組について
- ・救命救急の研修について
- ・当事者のお金の使い方の支援について

2, 「事故」「興奮時の緊急対応」「苦情」の年間件数（2022.4～2023.3）

| | I | II | III | V | GH | 居宅 | SS | その他 | 合計 |
|-----------|---|----|-----|---|----|----|----|-----|----|
| 事故（ケガ・急病） | | 2 | 3 | 5 | 1 | 1 | 2 | 2 | 16 |
| （見失い） | | 1 | | 1 | 1 | | | | 3 |
| （誤薬） | | 1 | 1 | 2 | 5 | | | | 9 |
| （誤嚥誤飲） | | | 2 | | | | | | 2 |
| （車両） | | 1 | 2 | | 2 | | | 8 | 13 |
| （他傷行為） | 3 | | | | | | | | 3 |
| （物損） | 1 | 1 | | 2 | 4 | | | | 8 |
| タイムアウト対応 | | | | | | | | | |
| 頓服対応 | | 5 | | 2 | 1 | | | | 8 |
| 苦情 | | 2 | 6 | | 6 | 1 | | 7 | 22 |

3, けんりようご委員会の1年間を振り返って

2010年から開催してきたリスクマネジメント委員会を、当事者代表を新たに加えた「けんりようご委員会」として再編した。当事者委員の参加に伴い、議題・進行・資料などを分かりやすくした。繰り返される事故について、当事者委員からは「安心して過ごせるようなパンジーになってほしい」という思いとともに、当事者視点からの改善案なども出された。当事者委員の参加は、チーフ・リーダーといった法人管理職だけの会議では見られない緊張感を生み出している。

4 情報発信

① インターネット放送局「きぼうのつばさ」放送内容

| 放送 | パンジーの眼 | 私の歴史 | パンジーキッチン | ドキュメント | |
|------------|--|------|---------------------------------|--|---------------------------|
| 68回 4月 | グループホームは、 自分の家 | | 世界のスープ旅⑧ トムヤムクン～世界3 大スープ～ | 「心の奥の自分に出会う～パ ンジー写真部の1年～」 | |
| 69回 5月 | 国会にとどけ、 私たちの声 | 佐藤高美 | みんなでつくろう ほんかくピッツァ | ドラマ 「ぼくは、サンダーマン」 | |
| 70回 6月 | 優生保護法の裁判 | 川西秀機 | みんなに食べてほしい 肉じゃがと大根もち | ドラマ 「What is our happiness? ～ しあわせって何?～」 | |
| 71回 7月 | 私の歴史スペシャル⑤ | | | | |
| 72回 8月 | 国連 | 清水一男 | 暑い夏にはつめたい スープ ～ビシソワーズ～ | 大空へはばたこうく自由への挑戦 | (予告) |
| 73回 9月 | | | 開店 50 回かんしゃデー に パウンドケーキ | | 第1章「入所施設はなぜ つくられたのか」 |
| 74回 10月 | | 東徹 | おいしくて健康によい 玄米リゾット | | 第2章「入所施設の中で何 が起きていたのか」 |
| 75回 11月 | ピープルファースト 大会 in 北海道 | | 有光シェフとみんなで つくるどらやき | | 第3章「入所施設、世界 では…」 |
| 76回 12月 | 当事者による 職員面接 | | みんなで力をあわせ て!もちつき | | 第4章「入所施設から地 域へ」 |
| 77回 1月 | 今もつづく、優生思想。北海 道・あすなる福祉会～ピープ ルファーストのたたかい～ | | あんもちぞうに | | 第5章「入所施設に入ら ない選択」 |
| 78回 2月 | 障害者権利委員会から の勧告 ～私たちの声を 聞け～ | 長尾明子 | ひな祭りに パンジーとくせいおし ずし | | 第6章「入所施設のない 社会へ」 |
| 79回 3月 | また勝訴。 旧優生保護法裁判 | 浅野真岳 | | | 千頭雄介 前編 |

② ホームページ・フェイスブック・パンジーだよりについて

・運営サイト

創思苑「自分で決める！」年間ユーザー 8,770 セッション 12,806 ページビュー 32,591

パンジーメディア 年間ユーザー 7,022 セッション 13,716 ページビュー 53,566

映画「あいむはっぴい！と叫びたい」

RDI コンサルテーション ——生きにくさを抱えた人たちへ

・フェイスブック

社会福祉法人創思苑 フォロワー655人

ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの／＜英語版＞Gifts from the Himaraya

みんなに伝えたいこと～ピープルファースト 25年の歩み～／＜英語版＞In our Own Worlds

・パンジーだより

NO.89 7月14日発行 NO.90 12月1日発行 NO.91 2月13日発行

③ DVD・映像制作

2022年度DVD制作 『自分らしく地域でくらす』

全国の図書館や、大学からのDVDの注文が多数あった。

④ 上映会

東大阪市や高松市を中心に上映会&トークショーを行い、多くの人にパンジーメディアの作品を見てもらった。

7月15日 『ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの』東大阪市文化創造館

9月9日 『あいむはっぴい！と叫びたい～クリエイティブハウス「パンジー」の挑戦』東大阪市文化創造館

10月28日 『ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの』尼崎倶楽部

12月2日 『ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの』高松市 ふらっと仏生山

⑤ メディア紹介

NHK・Eテレ「ハートネットTV（フクチッチ）」「障害者と選挙 後編」8月22日放送

NHK・Eテレ「ハートネットTV（フクチッチ）」「知的障害者 前編」2月27日放送

NHK・Eテレ「ハートネットTV（フクチッチ）」「知的障害者 後編」3月6日放送

『毎日新聞』 12月15日 番組作り希望の翼

雑誌『手をつなぐ』 11月号 通過型グループホームについて

かえる会

2022年より、パンジーVの当事者がリモートで会議に参加するようになった。会議の進行は支援者のペースで進めない、会議に出席する当事者の誰もが置いていかれることのないよう、1つ1つ納得しながら進めることができる会議を目指した。

2022年度は「給料について」と「職員面接」について話し合った。

創思苑ができた当初は、当事者が分かりやすい給与規定が作られていた。しかし昨今、いつの間にか細かく5つの項目に分けられるようになっていた。すべての人の給与が平等になるようにとの考えから徐々に変更が加えられていたことが分かった。かえる会のメンバーでも、その細かい規程を説明できる人がいなかった。誰がみても分かる規程にする必要があると考え、改めて整理した。当初に決めた通り、月の半分以上(月10回以上)パンジーに来たら5,500円。それ以下であれば3,000円と確認した。

パンジーに来ていない人も、「休むには休む理由がある。つながりを大切にするために支払おう」と、設立当初の考えを改めて確認した。

職員面接では、初めてパンジーVで職員面接を行った。面接官はVのかえる会の2名と、大阪のベテラン当事者4人だった。1人20分ほどを目安に予定していたが、ついつい予定していない質問をしてしまい、終了時刻より大幅に過ぎてしまった。「当事者主体についてどう思いますか?」「あんばい支援できてますか?」「ガイドヘルパーをしたことがありますか」。「…ないです」という職員の言葉には「それは勉強してもらわなあかん」といった鋭い質問や意見があり、職員は自分の意識が問われた。

その後に大阪で行った職員面接では、タイマーを使い時間配分を考え、質問内容を厳選し、慌てずに面接ができるように改善した。かえる会メンバーで面接の練習を行い、するどい「つつこみ」ができるように、何度も練習を重ねた。

当事者の感想

- ・ 職員の思いや考えを聞いてよかったし、僕にとってもよい経験ができた。大阪の仲間と話ができたことも刺激になった。
- ・ 「伝えているけど伝わっているのかな?」と思った。これからも見て行こうと思う。
- ・ お金や暮らしの事を一緒に考えてくれる職員になってほしい。自立にむけて支援をしてくれる職員に育ってほしい。その事を伝えられるのが職員面接なので、これからも続けていきたい。

職員の感想

- ・ とても緊張して頭が真っ白になりながらも、あっという間に過ぎてしまった。振り返ると、“面接官の質問に自分が思っていることを伝えられたのか? もっとゆっくりわかりやすく伝えるべきだったかと反省した。普段の関わりや、当事者との接し方を見直す機会になった。

グループホーム当事者会議

2022年度は、5回開催した。グループホーム当事者会議が始まり3年半が経つ。この3年半の中で、会議が活発になり当事者の発言が増えていった。それは、会議を重ねていく中で、当事者それぞれが我慢をせずに自分の思いを伝えようと思えるようになったこと、1人で抱え込まずに一緒に考えてくれる仲間がいると思えるようになってきたことが大きいと感じている。

自分の生活に関わる介護者や職員に、当事者は言いたくても遠慮して言えない事がある。しかし、なかまに支えられて、話しやすい空間や雰囲気大切にすることで、自分の感じていることを言ってもいいのだと思えるようになった。

当事者会議でのルール、“他の人の発言を否定しない”、“最後まで意見を聞く”ということも発言しやすい雰囲気になっている。

2月に開催した会議では「日曜日の朝くらいは、ゆっくり寝たい」「お風呂を急かされる。自分の入りたい時にお風呂に入りたい」という意見が出た。他の当事者も「その気持ちはわかる」「俺は、とりあえず起きて、その後、二度寝、三度寝して過ごしている」「お風呂は自分の入りたい時に入ればいい」「ほかの人に迷惑にならない時間であればいつでもいい」など、それぞれ意見があった。

グループホーム当事者会議で出た意見は、介護者、職員で共有し当事者の暮らしについて考えた。業務を優先させて介護者ペースになっていないか話し合い、見直しを行ってきた。「こう支援しなければ・・・」と考えてしていたことが、当事者の生活の自由を狭めてしまっていたのかも知れないと、自身の支援について振り返る機会となった。

すべての当事者が、安心して、楽しく暮らせるようにするには、どう支援するのが良いかを考え、実際に改善に向けて動き出すことができた。

ピープルファースト活動

2022年10月22日から23日、ピープルファースト大会が札幌で開かれた。コロナ感染症拡大のため、対面で開かれるのは3年ぶりだった。全国からおおよそ500名が参加し、創思苑からは75名が参加した。

全体会では、優生保護法やグループホーム制度改悪などの問題についての話があった。

そして、神奈川県立の入所施設「中井やまゆり園」での虐待事件について、パンジーの山田浩さんと野々口文彦さんから話された。この施設で6年間に認定された虐待は41件、関わった職員は76人にもなる。当事者の人権が尊重されていない実態に、会場から抗議の声が多く出た。神奈川県の検討委員をしているピープルファースト横浜の小西勉さんからも、虐待をなくす強い決意が話

された。

このやりとりを通じて、会場には共感や一体感が生まれていた。リモートや画面越しではなく、みんなが集まって話し合うことの大切さを強く感じた場面だった。

交流会は新型コロナウイルスの影響もあり、実施されなかった。分科会では、パンジーは「元気が出る話」「自分の歴史を話そう」「ドラマをつくろう」を担当した。

そして2023年のピープルファースト大会は、大阪で開かれることになった。

2022年の夏、来年の開催地を決めるための会議があった。コロナの心配が大きく、立候補する地域が出ない中、山田浩さんから「やる時はやらないあかん。大会を開いてみんなの元気を取り戻したい。交流会もやりたい」と手をあげ、大阪での開催が決まった。山田さんが大会実行委員長を務め、大会事務局はパンジーに置かれることとなった。

このような最中、あすなる福祉会の報道があった。知的障害があるカップルと一緒に暮らそうとするするとき、不妊処置を条件にしているという事件だった。これを聞いた山田浩さんは、すぐにピープルファースト北海道の松岡敏雄さんに「抗議しよう」と電話をしたことで、北海道・大阪を中心とした抗議運動が実行された。その行動は多くのマスコミに注目され、全国に報道された。

創思苑が法人設立とともにピープルファースト活動に取り組み始めて、今年で30年。新しいリーダーも誕生している。

講演会活動等

| 日程 | 依頼先 | 講演内容 |
|--------|------------------|-----------------|
| 6月5日 | 自立生活支援センター「わくわく」 | ガイドヘルパー養成研修 |
| 10月30日 | 出発のなかまの会 | 行動障害の人への関わりについて |
| 11月21日 | 荒川小学校 | 2年生対象人権学習 |
| 11月28日 | 荒川小学校 | 4年生対象人権学習 |
| 11月30日 | 仙台大学附属明成高校修学旅行 | 交流・「大空へはばたこう」 |
| 2月25日 | 神戸えんぴつの家 | 支援者にのぞむこと |

<講演に行って>

東大阪市荒川小学校・人権学習

11月21日と28日、東大阪市立荒川小学校の2年生と4年生に、当事者が講演をした。自分の体験を語る当事者の人たち。楽しかったこともあるが、何よりも聞いてほしいのは、一緒に勉強したかったけれど支援学級に行かなければいけなかったこと、友達が欲しかったけどできな

ったこと、ばかにされたことやいじめられたこと。そして先生に助けてもらえなかった経験だ。

小学生からは、いろんな質問が出る。2年生からは「どんな食べ物が好きですか」「どこに出かけたりするんですか」など。4年生になると、車イスを使用している当事者の梅原義教さんに「どうやって食事を食べているんですか」と、具体的な質問が出ていた。

「自分の近くの障害をもつ人も、こんな風に思っているのかな。話を聞いてそう思いました」と感想を言ってくれた小学生がいた。

パンジーの当事者：岡本智さんの講演の中に、「僕たちが伝える事で、社会がかわって行く」という言葉がある。これからも、当事者の声を積極的に伝えていきたいと思う。

出発のなかまの会・職員研修

出発のなかまの会、全職員が集まっての研修で講演をしてきた。パンジーの行動障害がある上田健司さんの報告に対して、行動の特性についてや、本人の変化について、多くの質問があがった。

出発のなかまの会では、支援者間の「対話」に重点を置いているということで、グループディスカッションの時間を多く取っていた。あらかじめ決まったテーマと、話し合いたい自由テーマをそれぞれが決めて、1分間の砂時計をバトンタッチしながら全員が何度も発言する等の工夫がされていた。特に印象的だったのは、司会者が意見や感想を求めた際に、職員のほぼ全員が挙手し、他の職員の発言に皆がうなずき、前のめりになって学ぶ姿勢を感じたこと。とても有意義であり、活発な雰囲気在那里にあった。

6 部門別事業報告

| | |
|-------------------------------------|----|
| クリエイティブハウス「パンジー」 | 15 |
| クリエイティブハウス「パンジーⅡ」 | 17 |
| クリエイティブハウス「パンジーⅢ」 | 19 |
| クリエイティブハウス「パンジーⅤ」 | 21 |
| 自立生活支援センター「わくわく」／相談支援センターわくわく | 23 |
| 自立ホーム「つばさ」 | 25 |
| 「パンジーメディア」 | 27 |

| | |
|-------------------------|--|
| 部門 | クリエイティブハウス「パンジー」 GH (さくら・はやぶさ・てくてく・花吉) |
| 部門の 目指す事 | <ul style="list-style-type: none"> ・経験が自信に繋がっている。 ・当事者ひとりひとりが目標を持っている。 ・すべての当事者が社会で活動する |
| 自分で 決める 役割を 持つ | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちが言える。 ・誰もが役割を持っている。 ・自分で決めたことを自信を持って続ける。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者支援について定期的に日中会議で話し合った。支援者は、当事者の行動がスムーズに進むよう配慮するのではなく、気持ちを汲み取って本人ができることを支援できるように取り組んだ。 ・日中の作業では、当事者それぞれの得意分野を活かせるよう、手作りのツールなどを用いて、すべての人が作業工程に携われるよう支援した。 ・予定表や手帳などを用いて、当事者自身が達成した目標を、一緒に確認できるよう取り組んだ。その結果を部門の当事者会で発表できるよう支援した。その結果、当事者が自信を持てたり、次への目標に意欲的な姿勢になれたと感じている。 |
| 地域で ふつうに くらす | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを充実させる。 ・すべての当事者が地域で暮らしている。 ・誰もがその人らしい生活を送っている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、上映会の企画に多くの当事者が携われるよう支援する機会は作れなかった。日中の取り組みでは、畑の作業において地域の方に協力してもらいながら多くの当事者が活動することができた。 ・プロジェクト会議を開き、他事業所や行政など様々な機関が関わりながら地域移行支援を進めている。 ・生活の質を考えるとという点で、本人、家族と相談をしながら、健康や住環境を見直す機会を作ることができた。 |
| 職員を 育てる | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者と家族、職員が支援について一緒に考える事ができている。 ・職員は、全ての当事者と関われるようになる。 ・職員は当事者のことを知る。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者の声を聞く「私の歴史」の出演に向けて、家族の協力を得ながら聞き取り等の支援に取り組むことができた。 |

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・実際に起きた出来事についてより深く話し合う為、ロールプレイを実施しつつ支援について検討した。実施の回数は少ない為、今後も積極的に取り組んでいきたい。・支援担当者は当事者の生育歴を把握し、またフェイスシートの見直しを行う機会を作った。しかしアセスメント等の見直しを行うことは今年度できなかった。 |
|--|--|

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

日中：

春に立てたパンジーの方針は、当事者にどうなってもらうかを考えるのではなく、視点を変えて「支援する側の職員が変わること」だった。今年度、実際に起きたひやりはっと事例や事故報告について検討することで、チームとして見えてきた課題や、職員個人の改善点を把握することができたと考えている。

改善が必要なのは決して新しい職員だけに限らず、毎日のことで当たり前になっている現状の中で、支援や生活の質を見直して考えていく事は、ベテラン職員だからこそ必要な部分もあったのではないかと感じている。

日中活動では今年、肥料を使わず自然のものだけを使って有機栽培する「菌ちゃん農法」による元気な土の成果が現れた年だった。当事者それぞれが役割を持ち、レギュラーメンバーとして週に2回の畑仕事に携わっている。根菜を中心に大根やじゃがいも、里芋や空心菜など、様々な野菜が大きく元気に育ち、味がとても安定してきました。自分たちが育てた野菜をパンジーⅢの厨房へ食材として提供することで、実際に自分が食べることに繋がる。そして購入者に配達して、味を宣伝するまでを当事者が担当した。売れたお金は自分の給料となり、自分の好きな物を買えることに繋がる。このサイクルを自分たちが直接体感することは貴重であると考えている。この経験を、すべての当事者が実感できるように支援することを今後も大切にしていきたい。

グループホーム：

2年前、児童の入所施設を退所したひとりの当事者が、パンジーへ通所しグループホームで生活をしている。最初の頃はどのように支援をして良いのかを支援者が迷ったこともあり、たくさん試行錯誤を繰り返してきた。しかし現在は支援者との関係性を築くことができてきたことや、本人が安心できる生活を感じられることで、心身ともに安定した毎日を過ごすことができるようになってきた。当事者本人の気持ちを汲み取ることで、適切な支援を行うことの大切さを改めて感じている。

また、来年度に向けて入所施設から新たに地域移行を予定している当事者の、パンジーでの日中活動、そして泊まりの体験を月に一度進めてきた。地域生活を送るにあたって、本人の声の大きさなど課題はまだあるものの、当事者と支援者との関係が着実に構築できつつあると実感している。

今後も、どんなに障害が重くても地域でその人らしく暮らせる支援を目指し、パンジーでは地域移行の取り組みを積極的に進めていきたいと考えている。

| | |
|-------------------------|---|
| 部門 | <p>クリエイティブハウス「パンジーⅡ」</p> <p>GH：春宮・花園・あじさい・コスモス・あゆむ・加納・あかだ・たんぼぼ・つばさ</p> |
| 部門の 目指す事 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が役割を持ち、自信を持っている。 ・すべての当事者が社会とつながって活動している。 ・一人一人が望む生活が実現でき、健康的な生活を送っている。 |
| 自分で 決める 役割を 持つ | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・外出活動が充実し、地域とつながりを持つ機会が増えている。 ・それぞれのライフステージや身体状況に応じた活動を行えている。 ・自分の役割に自信を持ち、積極的に取り組んでいる。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・おかきの販売、お米の配達などに積極的に取り組み、地域での活動が充実した。また、園芸の定期販売では地域とのつながりを深める事ができた。 ・仕事面は充実したが、身体機能の維持に関わる活動が不十分だった。 ・毎月、当事者会やきぼうのつばさの試写会を開催し、当事者が意見を言える場を持つ事ができた。 |
| 地域で ふつうに くらす | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・健康的に充実した生活を送っている。 ・医療が必要な人、年齢を重ねた人も、安心して地域生活を送っている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・リラックス、ウォーキングは、前年度に比べ取り組む時間が少なかった。 ・加齢に伴い、通院の必要が増え、丁寧に対応した。 ・環境面の見直しは積極的に行ったが、支援の質の向上の為には、活動の充実も含め、新たな提案や取り組みが必要となっている。 |
| 職員を 育てる | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者と家族、職員が自立に向けた支援を考える事ができている。 ・職員は、全ての当事者と関われるようになる。 ・職員は当事者を尊敬し、その可能性を信じて関わっている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス会議は、年間を通して、2名の当事者にスポットを当てRDIを取り入れた支援の実践、検討を行う事ができた。 ・プロジェクト、研修への参加については一部の職員に留まってしまった。 ・自立に向けた個別支援計画を立て、グループホームの見学や自立生活に向けた働きかけを行う事ができ、2023年度、3名のGH入居につながった。 ・当事者一人ひとりへの支援の充実は実践できたが、職員のビルディングの視点が薄く、個別の取り組みに留まっていた。そのことが職員の役割や責任を狭める事にもつながっており、改善が必要。 |

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

日中：

2022度は、日中活動の売上げの充実を考え、積極的に営業・販売に力を入れた。おかき、米の販売の拡充、園芸の定期販売の開始、外部清掃を新規に2件開始することで、当事者の給料の確保ができた。一方で、リラックス、ウォーキング活動の時間が少なくなってしまったこと課題が残った。

パンジーⅡは、高齢の人、身体障害があり機能維持の活動が必要な人、軽作業や清掃などの活動に参加する人など様々な当事者が通所している。そのため、それぞれの年齢に応じた活動の提供や支援の質を深める為にも、職員の役割や責任の幅を広げていくことが必要であると考えている。

当事者支援に関しては、個々の職員が担当する当事者に対しては積極的に取り組めた。しかし、チームとして取り組むという点では、不十分な部分があったと感じる。

関わりの難しい当事者の支援を通して、職員間で支援の方向性を共有する事の大切さを学んだ。これまで、あるひとりの当事者には特定の職員が関わることで安心して過ごしてもらえるよう支援してきた。しかし、支援担当の変更や体制が変わる中で、その当事者の支援の方向性に対する職員の認識にズレがあり、そのことで一貫した関わりができない状況になっていた。そこで、当事者の支援に関して改めて話し合いを行った。見えてきたことは、個々の職員が迷いながら支援している現状だった。ミーティングの中で、職員としての迷いや思いを共有し、今後の支援について検討した。そして、誰もが同じ方針を持って関わられるよう支援の統一を行った。その結果、以前と比較してとても落ち着いて過ごせるようになった。職員間のコミュニケーション不足が、当事者を混乱させてしまうことにつながっていたのではないかと振り返った。

日中の場では、複数の職員が1人の当事者と関わりを行う。その時、それぞれのスタンスが違えば、当然当事者は混乱してしまう。だからこそ、支援の方向性を統一してチームで一貫した関わりができるようにすることが大切だと改めて感じる経験だった。

グループホーム：

2022年7月の下旬から8月の中旬にかけて新型コロナウイルス感染によるクラスターが発生し、当事者、職員の約8割が感染した。個々のグループホームでは対応が難しく、日中のパンジーⅡの日中活動を停止して療養の場とし、陽性になった当事者が療養期間の10日間を過ごすことになった。多い時には17名もの当事者がパンジーⅡに集まった。これは職員、当事者共に初めてのことだった。たくさんの方が同じ空間で生活を送るためのルールが増え、当事者にも職員にもストレスが溜まっていくのをひしひしと感じた。10日間という期限があったから、当事者、職員とも何とか頑張れたと感じている。それぞれの家（グループホーム）に帰った当事者は、いつもの自分の暮らしを取り戻した。好きなテレビを見て、音楽を聴く。ゲームをしたり、おしゃべりをし、のんびりご飯を食べて、風呂に入る。当事者1人ひとりのかけがえのない暮らしが、そこにはある。この集団生活の体験を通して、改めて少人数で暮らすグループホームの大切さを感じた。

| | |
|-------------------------|--|
| 部門 | クリエイティブハウス「パンジーⅢ」 GH（よしだ809・もくもく208・こうのいけ・青空） |
| 部門の 目指す事 | <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが楽しめる活動に取り組み輝いている。 自分の生活を楽しみ、健康的に過ごすことができている。 仲間のことを大切に考え、助け合える関係をつくる。 |
| 自分で 決める 役割を 持つ | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 当事者それぞれの役割があり自信をもって主体的に動いている。 ネイチャークラブやメディア・当事者活動が日中活動に定着している。 料理や買い物など、自分のしたいことができている。 健康的で安全な食事を提供できている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> メディアに参加し当事者運動にかかわってきた人は、主体的に動くことができた。 メディアのディレクターズクラブで当事者がやりたいことを話し合い、新しいドラマができた。それぞれが役を持ち、生き生きと参加した。 パンジーの畑でとれた無農薬野菜を食事に提供することができた。玄米が定着し、砂糖や添加物が多い食品を避け、健康的な食事を心がけた。 |
| 地域で ふつうに くらす | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> グループホームの生活が自分らしいものになって楽しめている。 訪問リハビリを利用しながら、体の柔軟を保ち健康に過ごす。 感染症予防に十分に気をつけ、手洗い、換気が定着できる。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを持つようになり、観たい映画を探したり、野球観戦の予約をするなど活動が広がった。 グループホーム当事者会議で気になっていることを発言し解決するようになった。 週に1回、訪問リハビリにより、体の柔軟を保つことができた。また、ウォーキングやフィットネスによる運動も続けることができた。 手洗いをし、感染予防に気を付けた。しかし、コロナの感染が広がった。 |
| 職員を 育てる | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 理念を理解して、実践する。 当事者の話にしっかりと耳を傾けて、思いを想像できるようになる。 かかわりの基本を大切に、チームとして支援を継続して行う。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> トラブルがあったときに理念を見直し、職員全員で共有することはできた。しかし十分な理解には至っておらず今後も継続することが必要。 当事者の話に耳を傾けようとしたが、結果思いを十分には汲み取ることができなかった。何を伝えたかったのか、すぐに答えがでるのではなく、早 |

合点をしないようにする。

- ・かかわりの基本を会議で確認してすすめた。その中でもスケジュールをしっかりと確認することで、日々の体制を安全に保つことを第一に取り組んできた。しかし当事者の他害があった。少しの異変を職員個人でとめるのではなく、日々のミーティングで話あうことを大切に継続して取り組む。

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

日中：

コロナが収束するよう見えた2022年3月からは、今後の日中活動をどうしていくのが課題だった。世間では自粛モードが残る中、パンジーはどうするのかを職員間で話し合った。そして、基本的な感染対策はしつつも、当事者の活動や地域交流を再開していくことを選んだ。

10月には3泊4日の北海道旅行へ行った。法人全体で旅行へ行くのは約3年ぶりだった。この間、様々なイベントや活動が中止となり、新しい職員が外に出て当事者と一緒に活動する機会も少なくなっていた。その為に、職員の“支援力”についても課題の1つになっていたように思う。今回の旅行では、当事者はもちろん、職員にとっても経験を積む良い機会になったと感じる。

昨年入社した職員の朝倉さんは、北海道旅行の最中、担当した当事者が今どういう気持ちなのかを汲み取ろうと、必死に想像したそう。初日、当事者に話しかけてもなかなか振り向いてくれないことに悩んだが、時間を重ねるごとに、その人のことが分かってくるようになっていった。その当事者は、普段から人と絶妙な距離を取りながら、お互いに居心地のよい空間を作っていたことに気付いた。旅行の途中からは心がうち解けて、新人職員の誘い掛けにも笑顔で応え「うどんを食べたい」と希望を言うなど、とても旅行を楽しんでいた。その報告を聞いて、やっぱり旅行に来て良かったと思った。当事者と一緒に体験することで得られる支援力の大切さを実感した。

12月には餅つき大会を開催した。保護者に協力を呼びかけ、多くの人に手伝ってもらった。もち米は厨房で準備し、餅をついて、あんころ餅に。あんこはパンジーのパン屋さんから提供してもらった。各部門から当事者も全員参加し、それぞれが役割を持ちながら、久しぶりのイベントを楽しんだ。手伝いに来てもらった保護者から「餅つきのスピードが遅いっ、腰にしっかり力入れて！」と職員がエールをもらいながら、みんなで大笑いした。ここ数年、忘れていた雰囲気を思い出し、みんなで作るイベントはやっぱり良いなと感じた。

グループホーム：

コロナも少し落ち着きはじめ、「これからどこに出掛けたいですか？」と尋ねたときに、最も多かった意見は「お店でお寿司が食べたい！」だった。また、他のグループホームに遊びに行き、一緒にトランプゲームをしたいという意見もあった。

何気ないことのように思うが、この間そういった当たり前の人との交流がなかなか実現しなかった。これから、何気ないことを一緒に感じたい。そして一緒に発見したいと思った。

| | |
|-------------------------|---|
| 部門 | クリエイティブハウス「パンジーV」 生活介護 就労継続支援B型 ショートステイ |
| 部門の 目指す事 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が役割を持ち、自信を持っている。 ・仲間同士、助け合えるようになっている。 ・健康で、活動的な生活を送っている。 |
| 自分で 決める 役割を 持つ | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割に自信を持ち、積極的に取り組んでいる。 ・外に出る活動が増え、多くのことを経験している。 ・ピープルファースト運動などの当事者活動に取り組んでいる。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・生活や作業面での見通しが持てることによって、自発的に役割を担っている姿がよく見受けられるようになった。また仲間同士の声かけも増えている。 ・飲食店の清掃委託業務や宅地の草抜きなど、地域の中で定期的に生産活動を行える場所が増えた。当事者は経験と自信を積み重ねている。 ・パンジー旅行と合わせてピープルファースト大会 in 北海道に参加することができた。また、かえる会にも2名の当事者が参加している。 |
| 地域で ふつうに くらす | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームがあり、自立生活を送っている。 ・体に良い食事や適度な運動を通じて、健康になっている。 ・創作活動を楽しみ、生き活きと生活している。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの開設に向けて建設・準備を進め、入居希望者を対象とした説明会を行った。 ・ハイキングやウォーキングは継続している。当事者の体力面や特性に応じて、無理なく安全に参加できるよう計画的に実施している。 ・高松市のアートリンク事業は新しい講師のもと、新たな表現方法で創作活動を楽しむことができた。 |
| 職員を 育てる | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者を尊敬し、その可能性を信じて関わっている。 ・自分自身の目標を持ち、それに向かって取り組んでいる。 ・全員が関りの困難な人に関わっている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・毎週の会議で当事者一人ひとりに対する関わりを継続して見直した。またカンファレンスで得たアドバイスを実践し、フィードバックすることを繰り返すことで、支援について考える力が少しずつ身についてきている。 ・関りの難しい当事者は、支援者間で情報共有を密に行った。 |

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

日中：

2022年度は、悲しい別れの年となった。2020年の1月からパンジーVの仲間に加わったひとりの当事者は、明るいキャラクターとおしゃべりでムードメーカー的存在だった。ハイキングの時には、わざと危なそうな場所や高い所を歩き「見てみてー」とお茶目なアピールも欠かさない。人と関わるのが大好きで「〇〇さん、何しよん？」「ハイキングは勝賀山に行きます。決まり！」といつも元気な声を掛けてくれた。そんな彼ですが2022年の4月頃から急に家庭の事情で入所施設に入る話が持ち上がってきた。何とか入所せずにパンジーVに通い続けることが出来ないかと、ショートステイ連泊で対応する事やグループホームの体験利用で繋ぐ案など家族の方や相談員と何度も話をした。しかし、家庭状況や、制度の面などから入所せざるを得ない状況となり、2022年5月から入所施設の体験に行き、そのまま入所することになった。

かえる会の職員面接の場で、その当事者のことをどう思うかと聞かれた時、リーダーの平福は言葉に詰まりながら「あの時の自分に何ができたのか？どうすれば良かったのか？次に同じ様な場面に立たされた時に何が出来るのか、考え続ける事が大事だと思います」と答えた。「地域で普通に暮らしたい」と願っている当事者の人生と向き合い続ける覚悟が問われた。

また別の当事者は、2022年2月からパンジーVに通い始めた。始めは週1日の利用からだったが、持ち前の器用さと作業理解の速さから、軽作業や農作業など様々な作業活動で力を発揮していた。でも、コミュニケーションを取るのは特定の支援者と最小限の内容だけだった。そんな彼だが半山さんとの関わりをきっかけに、少しずつ変化が見られるようになった。作業の合間にお互いの趣味であるゲームの話題やYoutubeの事など、同世代の男性同士の会話で盛り上がるが増えていた。時にはゲーム機を持ち寄って対戦ゲームで遊ぶこともあった。そして通所日が週3日に増え、祝日の振り替え利用を自分から申し出たり、自転車を通うようになったり、どんどん積極的になっていった。そんな事もあって、それまでは参加を見送っていた行事にも参加できるようになった。1日ハイキングでは仲間とゆっくり歩いたり、楽しそうにアスレチックをする姿が見られた。バーベキューに参加した時は、率先してトングを握りお肉を焼き、そして「やったことないけど…」と言いながら皆のために焼きそばも焼いてくれた。逞しくなっていく姿をととても嬉しく、頼もしく見守っていた。もしかするとパンジーVから一般就労への支援をする日が来るかも…と思うこともあった。でも別れは突然訪れた。2022年12月に事故で亡くなった。享年21才。深い悲しみが当事者と支援者を包んだ。それでもお互いに支え合いながら日々を過ごし、お別れ会を行った。それぞれに〇〇さんとの思い出を語ったり、言えなかった自分の気持ちを吐き出したりと、思い思いに別れを噛み締めた。

「彼のことは忘れません。これからもパンジーVの仲間です」

ショートステイ：

男女ともに新規の利用者が増えた。その中には2023年の春から開設されるグループホームでの自立した生活を目標として、ショートステイを利用する当事者もいた。今後も、「地域で普通に暮らす」ためのイメージを持って一步を踏み出せる様に、ショートステイでの支援を続けていきたい。

| | |
|--------------------------|--|
| 部門 | 自立生活支援センターわくわく/相談支援センターわくわく GH（もくもく308・よしだ808） |
| 部門の 目指す事 | <ul style="list-style-type: none"> ・自信を取り戻し、自分らしく、生きている。 ・支援者がチャレンジ精神を持ち、当事者とともに、成長する。 |
| 自分で 決める、 役割を 持つ | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・同年代と同じ楽しみや生き方を選ぶことが出来ている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書などを通じて当事者の行動の意味や変化に気づき、家族ヘルパー等関係者と情報の共有をした。 ・コロナ過における楽しみや、趣味につながる行先や活動を提案することができた。 ・選択肢を複数提案したり、新しい取り組みもサポートすることで実現することができた。 |
| 地域で ふつうに くらす | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な環境にあっても、自分の暮らしに誇りを持っている。 ・支援者と信頼関係を築いて、自分の思いを伝えることが出来ている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや希望に関しては、電話やわくわく事務所、支援者を通じて聞き取るよう努めた。 ・支援者や関係機関と連携を取り、困難事例であっても粘り強く関わり、課題解決を図ることができた。 |
| 職員を 育てる | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・支援者が当事者を尊敬した配慮、言葉遣いができるようになっている。 ・事業運営が安定し、課題に適切に取り組める環境になっている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・虐待・身体拘束に関する研修を行い、その中でことば遣いや、当事者を尊重することの大切さは毎年伝えている。 ・事業運営は安定しているが、総ヘルパー数は増減なかった。資格取得により、行動援護のヘルパーは増えている。 ・制度に関しては、情報を敏感にキャッチできるよう、行政の通知を見逃さず、また、他事業所、団体とのコミュニケーションをはかり、情報の共有をおこなった。また、ヤングケアラー、重層的支援体制整備事業などの外部研修にも積極的に参加した。 |

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

居宅部門：

居宅部門は2022年度、延べ人数1214人に3468回、15911時間の派遣を行った。（移動支援・居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護合計）

コロナについては、不安定な状況ではあるが、感染予防をしながら外出先の制限を大幅に緩和した。結果、少人数グループでのカラオケや、花火大会、コンサート等に出かけることができた。また、年末には1泊で温泉旅行に行きたいという当事者のニーズに応えることもできた。しかしガイドヘルパーを増やすという、長年の目標は達成できておらず、支援の難しい利用者に対しては、創思苑職員のガイド参加に頼らざるを得ない状況である。ヘルパーの研修として、3月に虐待・身体拘束に関する研修を行い、多数のヘルパーの参加があった。活動する上での心構えを学んだ。

相談部門：

委託相談として、2022年度は月平均約8名の新規相談、年200人以上延べ2,400件の個別対応を行った。毎月80名近い相談者に関わってもなお、関わり切れない方が多くあった。

相談者の主たる障害種別は、多い順に精神、知的、身体、発達障害だった。電話相談が大半を占める中、年500件以上の訪問も行ってきた。

印象に残るエピソードのひとつに、児童相談所からの発達障害の方の地域移行の相談があった。児童施設で暮らしていた方が、18歳または未満でグループホームに移行することになったとき、計画相談をする事業所を探すだけでなく、生活課題も多く見えてきた。社会資源を見つけるだけでなく、受け入れ事業所を支える仕組みも考える必要があった。

また、長年関わってきた方が亡くなった。詳細は省くが、障害者虐待も含め、複合多問題を抱えており、ヘルパー事業所、訪問看護や通所事業所等、多数関わってきた。その時々でやれる限りのことは支援してきたが、亡くなられたことで、支援を振り返る機会となった。

自立支援協議会では、個別相談対応で培ってきた経験をもとに、様々な専門会議に積極的に参画してきた。とりわけ重度の知的障害者の地域移行、地域生活を支える仕組みづくりに関する場では積極的な発言をしてきた。委託相談という立場だからこそ気付くことのできる社会問題、地域課題について、これからも意見提起をして、協議会の活性化にも寄与していく。

| | |
|--------------------------|---|
| 部門 | 自立ホーム「つばさ」 |
| 部門の 目指す事 | <ul style="list-style-type: none"> ・その人らしく、自信を持って生活を送れている。 ・安心できる支援者になれるように当事者の意見を大事にする。 ・望む生活の実現と健康な生活を送り続ける。 |
| 自分で 決める、 役割を 持つ | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・やりたいこと、叶えたいことが実現でき、生活が豊かになっている。 ・自分の想いを支援者に話せるようになっている。 ・仲間と助け合いながら協力できている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者のニーズについて、支援の方向性が明確になっていなかった。 ・GH当事者会議を定期的に行き、それぞれに気になっていることを話し、解決に向けて動くことができた。しかし普段の場では、当事者が気になっていることの話聞くこともあり、現場で率直になんでも話せるような環境づくりを更に作っていく必要性を感じた。 ・仲間と繋がりがあったが、役割は定まっていなかった。 |
| 地域で ふつうに くらす | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関と連携をしながら健康維持以上に生活を送る。 ・地域生活でその人にあった生活を送りながら充実している。 ・食住での生活が拡充して快適に過ごせている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医と連携しながら健康診断の結果の相談などができた。しかし普段の生活で健康維持に繋がる取り組みが必要だった。 ・その人にあった生活が充実した人もいれば、課題が残るケースもあった。 ・安心安全な食事の提供は少しずつではあるが改善されてきている。 |
| 職員を 育てる | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・職員はすべての当事者に関われるようにする。 ・介護者は当事者のことを知る。 ・理念を元に、当事者支援を行う。 ・グループホーム当事者会議が活発に開催され、よりよい支援につながっている |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・すべての当事者に関われる機会がなかった職員もいるので、関われる環境を作る必要があった。 ・介護者は現状のことは知っているが、生育歴なども知る必要があった。 ・理念の定着にばらつきがあり、当事者支援も課題が残る。 ・グループホーム当事者会議は活発になってきており、当事者から改善点があり、よりよい支援に繋がった。 |

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

グループホームの建て替えのため、6人の当事者が引っ越しをすることになった。府営住宅に新しく作った自立ホーム「加納」に引っ越したのは菜嶋亮太さんと川西秀機さん。2人は重度の自閉症と行動障害があり、大きな声が出てしまうことがある。生活の場所や環境が変わることで、落ち着かなくなることや、近隣からの苦情が出るのではないかと心配があった。しかし、同居の当事者の人数が少なくなったことや、買い物などの余暇活動が充実したこと、そして支援者の安定した関りにより落ち着いて生活をすることができた。

また、引っ越しをしたほかの4名については、新しい環境の中で、自分らしい暮らしを送ることができている。

どんなに障害が重い人でも、支援者の関りや、当事者の経験の積み重ねにより、地域で安心してくらせることを改めて実感することができた。

2023年には、新しく建て替えたグループホーム「コスモス」が完成し、多くの人の引っ越しがある。ひとりひとりの生活を考えながら、生活の質を向上していけるようにしたい。

グループホームの当事者の平均年齢が40代半ばになっており、通院や、入院をする当事者が増えてきた。これまで食にも気を配り、丁寧に体調管理を行ってきたが、今後もより一層、味にこだわりおいしい物を食べながら、健康に配慮した支援をしていきたい。

グループホーム入居メンバーによる、グループホーム当事者会議が開かれ、そこで出た当事者の意見を職員や介護者間で共有、話し合っ改善をしてきた。これからも、当事者の意見を真摯に受け止め、当事者の自分らしいくらしのために支援をしていきたい。

| | |
|--------------------------|--|
| 部門 | パンジーメディア |
| 部門の 目指す事 | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者が役割を持ち、メディアの活動に自信を持って取り組んでいる。 ・上映会、講演会など積極的に活動をしている。 ・入所施設を問う番組を作り社会に深く訴えている。 |
| 自分で 決める、 役割を 持つ | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ディレクターズクラブが充実し、自分たちの作品を発表している。 ・キャスターやコメンテーターなど、役割を持った当事者が増えている。 ・障害者の権利について自分のことばで語れるようになっている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度、ディレクターズクラブから2つのドラマが誕生した。「ぼくはサンダーマン」と「What is our happiness?～しあわせって何?～」。 2作品とも、当事者が案を考えて、キャスティングも行い、充実した作品に仕上がった。 ・メディアに関わる当事者はそれぞれ、自分たちの役割を意識して関わるようになっているが、特に辰己さんと山田さんの成長は大きかった。 ・辰己正一さんがキャスターとしてNHKの座談会に出演し、山田浩さんは「大空へはばたこう」の記者として多くの人と出会い、取材を行った。経験を積むことで、障害者の権利について少しずつ自分の言葉で語れるようになってきている。 |
| 地域で ふつうに くらす | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・どんなに障害が重くても地域で暮らせることを発信している。 ・当事者の生き生きとした生活を発信している ・『きぼうのつばさ』を見ている人が増えている。 ・各地で上映会が開かれている。 |
| | 達成度 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月欠かさず発信することができた。また、NHKでパンジーメディアの様子が放送されることで、より多くの人に知的障害者の生き生きとした生活を伝えることができた。 ・上映会は、東大阪市で2回、尼崎で1回、高松で1回開催できた。 ・また、外部では豊中市、和歌山市で上映会の申し込みがあり、開催できた。 |
| 職員を 育てる | 2024年の姿・目標 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・メディア担当の職員は、よりよい番組が作れるようになっている。 ・メディアの活動を通じて、より深く当事者を理解する。 ・全職員が何らかのメディアの活動に参加している。 |
| | 達成度 |

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・メディア担当の職員は、良い番組が作れるよう、一朝一夕ではならず、1ミリの成長を心がけている。・新たに、私の歴史や、ドキュメント、カフェなどに関わる職員は、5、6名増えた。今後も増やしていく。・私の歴史の原稿作りを支援し、より深く当事者のことを理解するように努めた。・月に一度、『きぼうのつばさ』の感想を提出することになっているが、職員全員からの提出はできていない。 |
|--|--|

一年を振り返って（エピソード・そこから学んだこと）

・ パンジーメディアの広がりについて

NHK Eテレ、フクチッチで3回に渡り、パンジーや、生田進さんを軸にしたピープルファーストの歴史、そしてテレビ戦士との交流によるパンジーメディアの活動が放送されました。昨年度に引き続きさらにパンジーメディアの活動が広がりをみせています。

一方で、未だにあすなろ福祉会のような結婚や同棲を希望する当事者に不妊処置を行っていた権利侵害もまかり通っています。これからもパンジーメディアは当事者の声を発信し続ける必要を強く感じています。

・ 大空へはばたこうの完成

2022年度の大きな柱は、入所施設の問題に鋭く切り込んだシリーズ「大空へはばたこう」6回シリーズの完成です。入所施設をなくすためには、より多くの人たちと協力が必要です。この作品はそのさきがけとなると考えています。より多くの人に観てもらうために、全国各地で上映会を行っています。

・ 当事者が自信を持って発言ができるように

辰己正一さんがキャスターとしてNHKの座談会に出演し、山田浩さんは「大空へはばたこう」の記者として多くの人と出会い、取材を行いました。特に山田さんはこれらの経験を通して、あすなろ福祉会抗議時の記者会見では、積極的に発言をすることが出来ました。

また、ディレクターズクラブによるドラマ制作でも、自分たちの思いをドラマという形にしていく過程で、それぞれが自分たちの言葉で語る事ができてきています。

このようなことを積み重ねていくことで、当事者のエンパワメントにつなげていきたいと考えています。

・ DVDの制作・販売

2022年度は『地域で自分らしくくらす』のDVDを新たに制作しました。大学や公立の図書館からの注文が多くありました。